

# スマートフォンを業務で使いこなす 統合開発環境ソフトを提供 「MobileUnity」でモバイル革命に挑戦

**携**帯電話の利便性とノートパソコンの機能性を備えたスマートフォン。富士通ビー・エス・シー(以下、富士通BSC)は長年培ってきたアプリケーション開発・実行基盤やデバイス制御、セキュリティなどの技術力をベースに、スマートフォン向け統合開発環境ソフト「MobileUnity」をモバイル市場に投入。スマートフォンの動向やMobileUnityの優位性を同社社長の兼子孝夫氏に聞いた。

——ビジネスでスマートフォンが注目される理由について、どのようにお考えですか。

スマートフォンは多機能な携帯電話端末の総称です。1台で携帯電話とノートパソコンの機能を備えていることから、コミュニケーションや業務効率を向上できます。こうした利点に加え、最近ではスマートフォンをビジネスで利用しやすい環境が整ってきました。無線LANやWiMAX(ワイマックス)と呼ばれる無線通信技術の発達により、外出先から高速なモバイル通信を低コストに利用できるようになりました。

また、スマートフォン向けの基本ソフト「Windows Mobile」の登場により、パソコンとの連携もスムーズに行えることから、業務への活用が一気に広がると期待されています。Windows Mobileを搭載したスマートフォンが各メーカーから発売され、国内の携帯電話会社は本格的にモバイル市場に投入し始めているところです。

基本ソフトに関してはマイクロソフトのWindows Mobileに加え、グーグルがLinuxベースのフリーソフト「Android」を発表し、大きな反響を呼んでいます。さらに、アップルはヒット商品のiPodにスマートフォンの機能を備えた「iPhone」で市場に参入するとみられています。今後、スマートフォン市場は大きな成長が期待でき、ビジネスの「主戦場」になりそうな様相です。

## 利用が広がるスマートフォン

——Windows Mobile対応スマートフォンはどんなインパクトがあるのですか。

パソコンで作成した文書やデータをスマートフォンに取り込み、社外で利



「拡大が期待されるスマートフォン市場で、当社が持つ技術力を発揮する」

あるのですか。

技術的には3つのポイントがあります。その第1が業務アプリケーション開発・実行基盤です。サーバとスマートフォンが連携して動作する業務アプリケーションを容易に開発でき

社の強みとなっているのです。

「MobileUnity」の製品化にあたり、セキュリティやアプリケーション開発などの様々な部門が連携する全社プロジェクトに位置付けています。これまで、情報技術の標準化では欧米が主導する傾向も見受けられました。スマートフォン市場が世界規模で拡大する中、社員には日本だけでなく、世界のデファクトスタンダードになる意気込みを持ち、全力で取り組むよう号令をかけているところです。

「MobileUnity」の特徴は、開発者が業務処理の実装に専念できる実行基盤と開発環境を提供していることです。例えば、受発注のアプリケーションを開発する場合、スマートフォンの画面サイズに合わせて商品の在庫確認と発注処理など複数の画面に分割して表示できれば利用者は便利です。こうした複数の画面を遷移しながら行う業務処理も、画面の各項目ごとに呼び出す処理のひな形を自動生成するため、簡単に業務アプリケーションを開発できるフレームワークを用意しました。

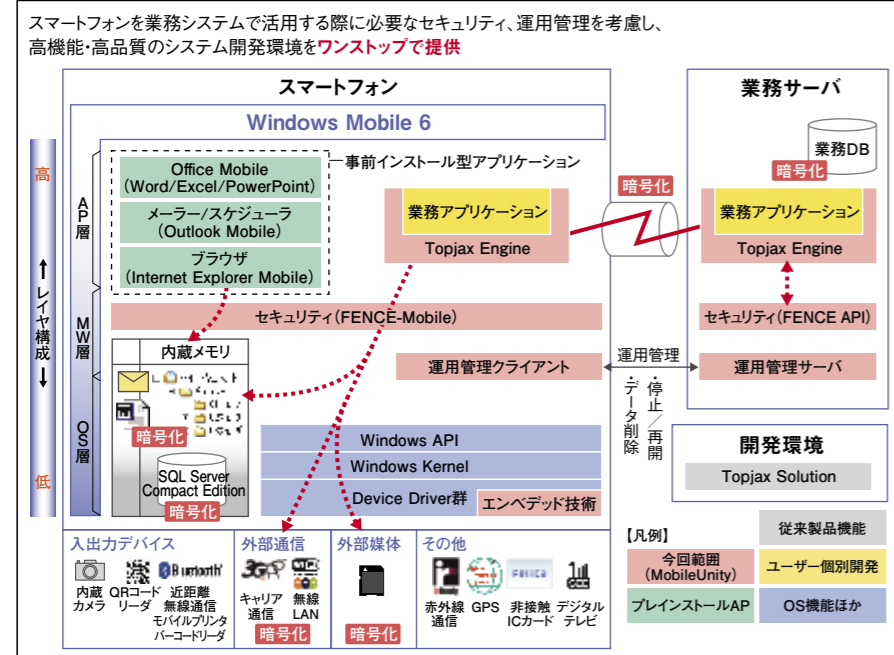
——そのフレームワークとはどんなもの

るプラットフォームを提供します。第2は、デバイス制御と運用管理です。スマートフォンに付随する各種デバイスをアプリケーションから利用したり、端末の状態をリモートコントロールできます。

そして、第3がセキュリティ技術です。スマートフォンを社外で安全に利用できるスマートフォン向けセキュリティ製品「FENCE-Mobile」を開発しています。

「MobileUnity」で実現する技術は一朝一夕に成し遂げられるものではありません。当社が長年、積み重ねてきた業務アプリケーションや組み込みシステムなどの独自技術があり、これが当

全体コンセプト MobileUnity

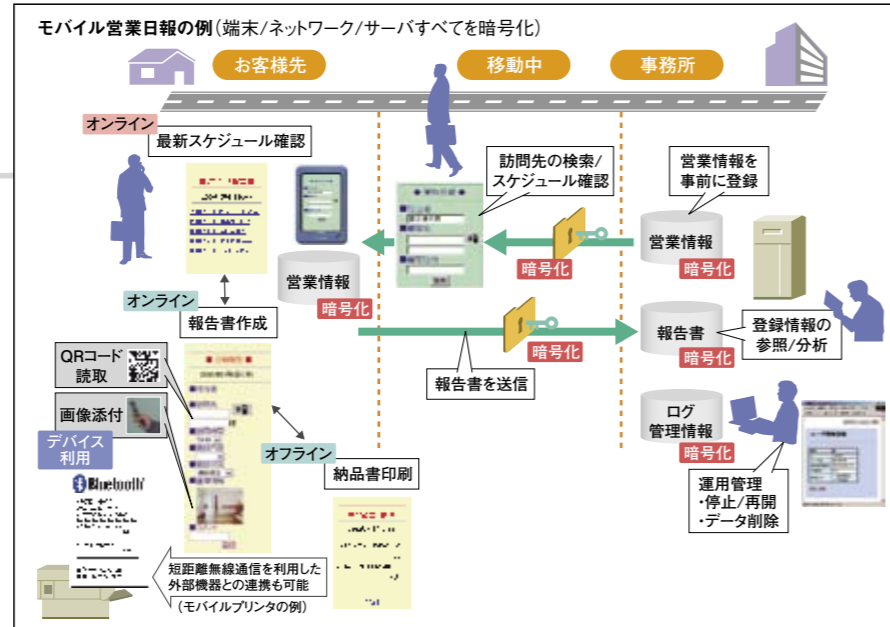


のなのですか。

富士通が作成した「Topjax Solution」という開発フレームワークです。Topjax Solutionは最近話題のAjaxと同様オブジェクト指向プログラミング言語であるJavaとXML技術をベースとしています。今回これをスマートフォン向けにカスタマイズし、C#に対応しました。これによりスマートフォン向け業務アプリケーションの開発作業の標準化や短期開発が可能となりました。このフレームワークを業務アプリケーションの実行エンジンに適用することで、業種・業態にかかわらず、共通の実行基盤を提供できる利点があります。

「自社開発だから、セキュリティ機能の強化にもスピーディに対応できる」

### 利用シーン MobileUnity



——スマートフォンのデバイス制御と運用管理はどのように実現しているのですか。

当社の携帯電話向け業務活用ソリューション「MobileManager」の技術をベースに、スマートフォン向けのミドルウェアを用意しています。スマートフォンに搭載されるカメラや無線通信、バーコードリーダーなどの各種デバイスを利用する際、機種に依存していたデバイスの制御をこのミドルウェアが吸収することにより、利用者は業務アプリケーションから各種デバイスを自由に使えるようになります。

また、リモートによる

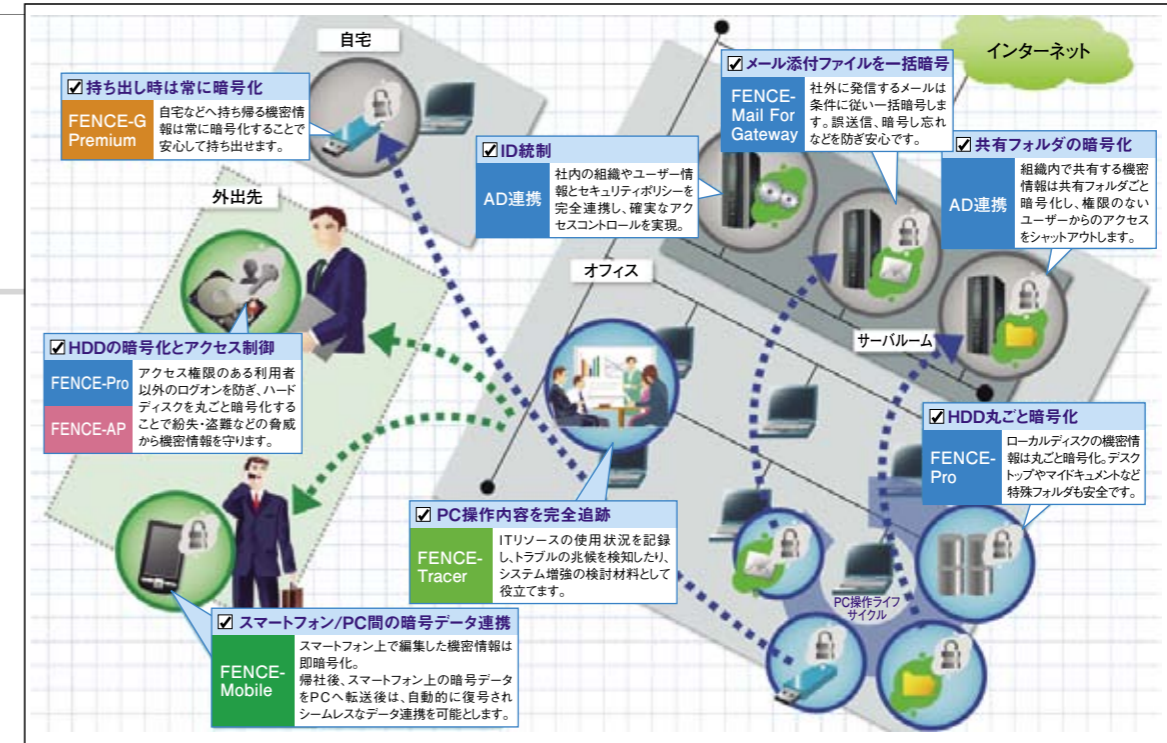
端末の運用管理機能を提供します。万一、スマートフォンを紛失した場合、本社の情報システム部門などが遠隔操作で端末の機能を停止したり、データを消去するなど、安心してスマートフォンを業務に活用できます。さらに、デバイスドライバなどのソフトを組み込む技術は、エンベデッドシステム分野で長年培っており、当社の最も得意とするものです。

### 独自開発のセキュリティ技術

——スマートフォンの利便性は理解しても、セキュリティに懸念を持つ経営者も多いようです。

コンプライアンスや内部統制の観点からも情報保護が企業の最重要課題になっており、スマートフォンのビジネス利用を促進するためには、セキュリティの強化は欠かせません。スマート

### あらゆるビジネスシーンで強固なセキュリティを実現



フォン本体や外部記憶メディアには営業情報や顧客情報、電子メール、アドレス帳などの重要な情報が保存されず。一般的なノートパソコンと違い、スマートフォンは電源を切っても情報が消去されない不揮発性のフラッシュメモリーが使われており、本体の内蔵メモリーと外部記憶メディアを含めたデータ暗号化が必須になります。

また、社外で無線LANサービスを利用する際、無防備なままだと盗聴される危険性があります。海外では無線LANサービスの場所にパソコンを持ち込んで盗聴している人がいるそうです。日本でも安全に社内システムへアクセスするためには、無線LANの部分にも暗号化機能が不可欠というわけです。

そこで、「MobileUnity」ではスマートフォン、無線LAN、本社側サー

バのデータベースを含め、一気通貫のデータ暗号化を図っています。徹底したデータ暗号化に加え、外部媒体などの利用を制限して情報漏洩を抑止するセキュリティ技術は、当社のパソコン向けセキュリティ製品「FENCEシリーズ」で培ってきたものです。「FENCEシリーズ」は200万ライセンスに及ぶ導入実績があり、多くの企業から高い評価を得ています。

現在、スマートフォン向けにデータ暗号化や情報漏洩を抑止するセキュリティ技術を自社開発で実現しているIT企業は世界で数社、日本では当社のみと自負しています。自社開発だからこそ、セキュリティ機能の強化にもスピーディに対応できるのです。

——「MobileUnity」により、スマートフォンの使い方は変わりますか。業務ごとに様々な使い方が可能で

す。例えば、営業担当者が顧客を訪問する際、商品の在庫情報を社内システムからスマートフォンに取り込んで、顧客先で受発注処理を行うこともできます。そし

て、スマートフォンに取り付けたモバイルプリンタで発注確認書を印刷して顧客に手渡すことで帰社後、確認書を送付する手間もなくなり、業務を効率化できます。

——身近なメールからスマートフォンを利用する方法もありますか。

はい。メールの送受信から使い始め、業務アプリケーション連携へと拡張するなど、柔軟なシステム開発環境を提供しています。企業ニーズに応じたアプリケーション開発を含め、スマートフォンの業務活用を支援していく考えです。当社で積み上げてきた技術が時代の趨勢となり、スマートフォン向け統合開発環境ソフト「MobileUnity」の製品化で結実したものです。今後とも、富士通BSCは技術にこだわり、「明日の仕事」につながる技術の種を育てていきたいと考えています。

※本文中に記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

